

# トビウオ通信 (R2 第8号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《令和2年秋季におけるケンサキイカ漁況予報》

山陰沿岸での秋季(9~12月)におけるケンサキイカの漁況は、①日本海南西海域における資源・来遊状況、②高水温帯の分布状況が大きく関わっていることが知られています。それらの情報を基に、県内各地におけるケンサキイカの漁況予測を行いました。

### 漁況予報の概要

対象魚種:ケンサキイカ秋季来遊群(秋季:9~12月)

対象漁業:イカ釣り漁業(5トン未満船、5~30トン船)

対象地区:出雲地区(松江~出雲)、石見地区(大田~益田)、隠岐地区(西郷)

漁況予測:出雲地区の1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年を上回る

:石見地区の1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年を上回る

:隠岐地区の1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年を上回る

### 予測に用いた情報

#### 【① 日本海南西海域における資源・来遊状況】

秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカ(秋季来遊群)は、来遊前は日本海南西海域の大陸棚上に広範囲に分布しています。(図1)

夏季(8月)に九州から山口沖で浜田の沖合底びき網漁業(以下「浜田沖底」)により漁獲されるケンサキイカは、秋季に沿岸域に来遊するものと同一資源と考えられます(図2)。

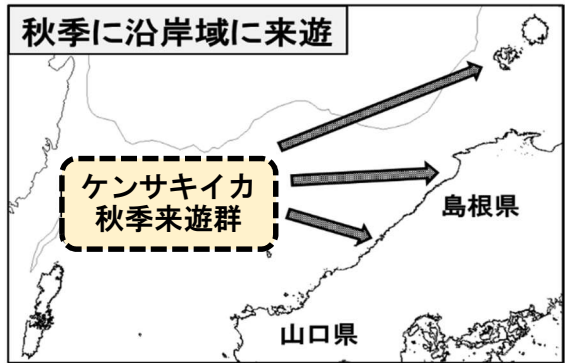


図1 秋季におけるケンサキイカの来遊イメージ。大陸棚上に分布していたケンサキイカは秋季に沿岸に来遊する。

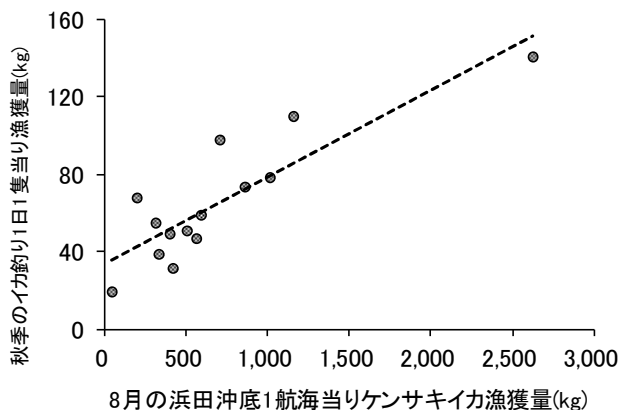


図2 浜田沖底とイカ釣り(出雲地区)の漁獲状況の関係性。浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いとイカ釣りの漁獲量が多い関係にある。

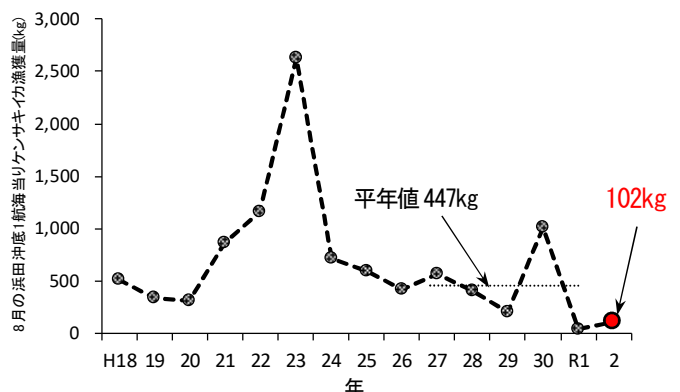


図3 8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量の推移

そこで、8月時点での浜田沖底における1航海当りのケンサキイカ漁獲量から秋季の資源・来遊状況を予測しました。

令和2年の漁獲量は102kg(図3)で、平成18年以降で最低値であった前年(R1年:44kg)は上回るものの、平年値(H27-R1年の5年平均)447kgを大きく下回ることから、令和2年の山陰沖でのケンサキイカの資源・来遊状況は、前年に続いて非常に少ない状況にあると考えられます。

## 【② 高水温帯の分布状況】

ケンサキイカは暖水域を好むイカ類であり、特に秋季では山陰沿岸の水深100m層に21℃以上の高水温帯(図4)が広範囲に広がる場合、山陰沿岸ではケンサキイカの良好な漁場が形成されますが、水温が21℃を下回ると不漁となる傾向が見られます。

令和2年の秋季の水温分布予測(図5)を見ると島根県沿岸には21℃以上の高水温帯があまり広がらないことから、ケンサキイカの漁場形成には適した状況ではないと思われます。 ※使用した水温データは「拡張版日本海海況予測システム JADE2」より入手

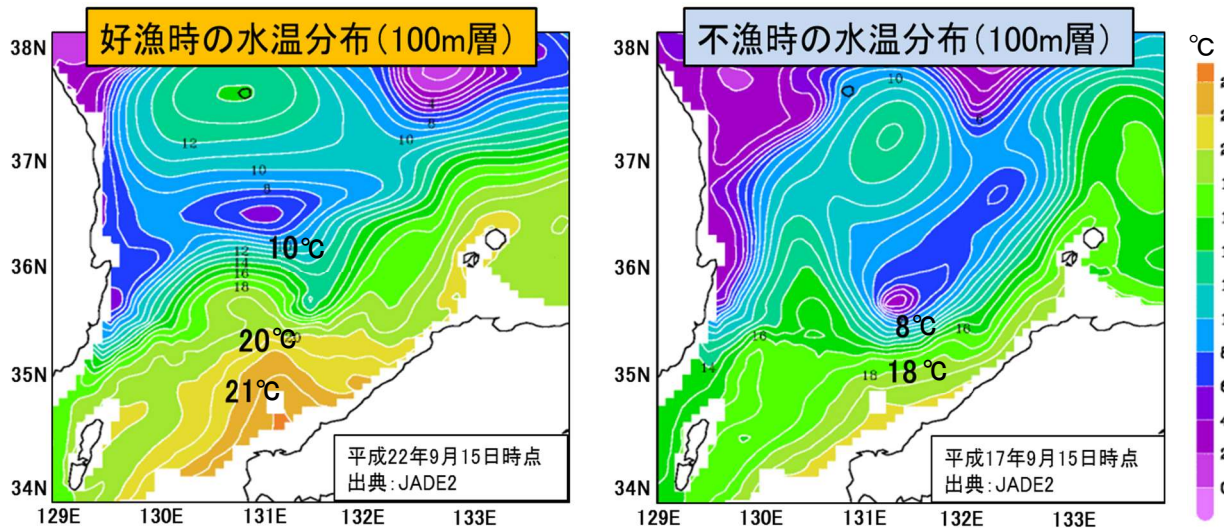


図4 ケンサキイカ的好漁時と不漁時の水温分布(100m層)の比較。好漁時(左図)には、沿岸に高水温帯が広範囲に広がる。

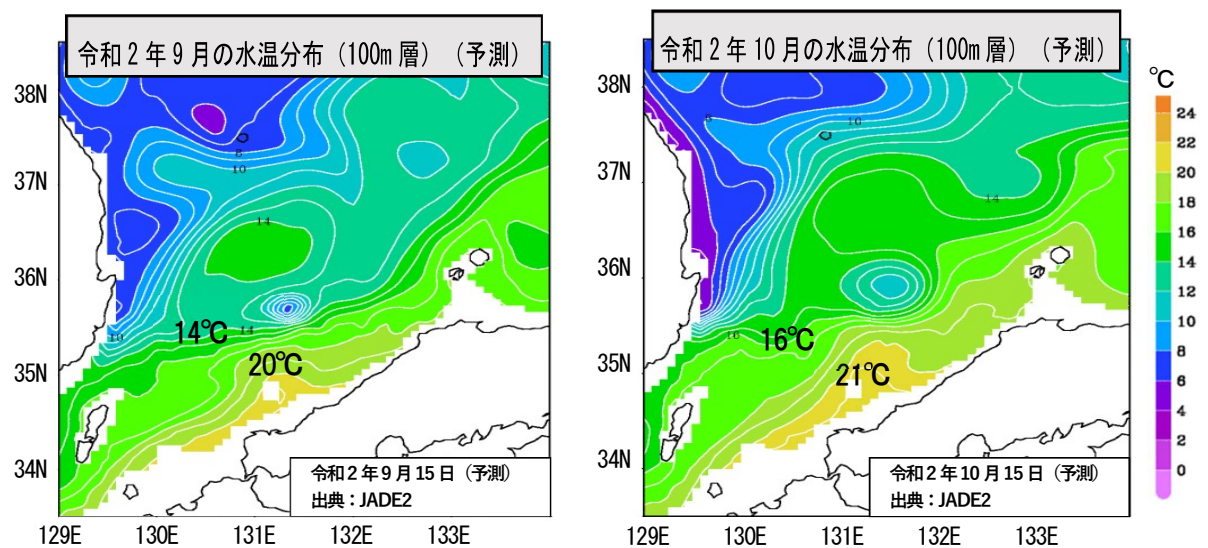


図5 令和2年の秋季の水温分布の予測図(100m層)。9月(左図)、10月(右図)とも高水温帯があまり広がらないと予測。

## 漁況予報

これら①、②のデータから各地区の秋季（9～12月）におけるイカ釣り漁業（5トン未満船、5～30トン船）の1日1隻当りの漁獲量を次のとおり予測しました（図6）。

### 【出雲地区（松江～出雲）】

1日1隻当りの漁獲量は25～53kg（平均約39kg）の範囲で、記録的な不漁であった前年（19kg）を上回ると予測されます。

### 【石見地区（大田～益田）】

1日1隻当りの漁獲量は44～90kg（平均約67kg）の範囲で、記録的な不漁であった前年（9kg）を上回ると予測されます。

### 【隠岐地区（西郷）】

1日1隻当りの漁獲量は18～65kg（平均約41kg）の範囲で、記録的な不漁であった前年（9kg）を上回ると予測されます。

ただし、今回の予測に用いた方法では前年の記録的な不漁を予測することはできませんでした。前年の状況が今漁期も続くようであれば、山陰沖へのケンサキイカの来遊を左右する要因が変化した可能性がありますので、今後の動向を注視していく必要があります。

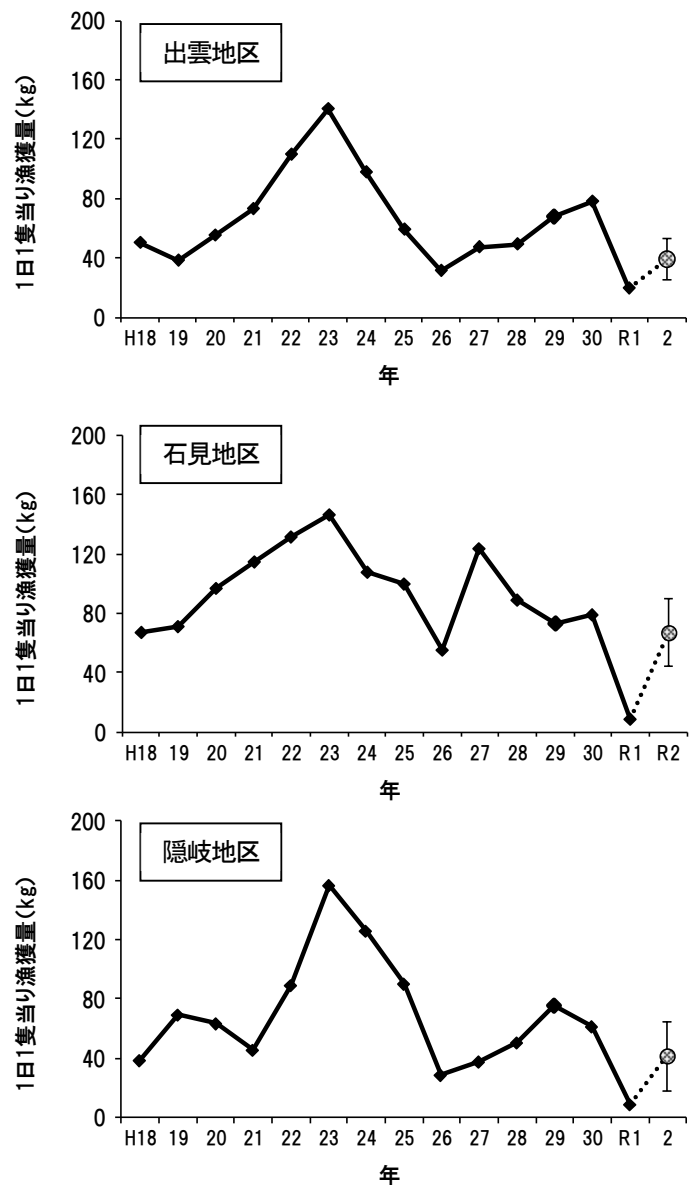


図6 イカ釣り漁業における1日1隻当り漁獲量（9～12月）の推移。令和2年は予測値（バーは95%予測区間を示す）。